

こんにちは！ 室長の工藤です。

新聞などで報じられているように、1月22日から市役所の新市庁舎建築工事が着工となりました。そこで今回は、昭和31年（1956）12月1日に竣工した現庁舎を取り上げてみることにしましょう。

このときの庁舎新築には、当時の庁舎はバラック建ての庁舎で補修や改修を繰り返すで「満身創痍の『おんぼろ庁舎』」となっていて、来庁した市民にも不快感を与えていたという背景があったといえます（『青森市議会史』自昭和28年至昭和31年）。そこで、横山實市長は市議会に庁舎新築について同意を求めました。昭和31年2月7日のことです。このときの議事は設計内容をめぐって紛糾したものの原案通り可決しました。

ちなみに、「おんぼろ庁舎」と<sup>やゆ</sup>揶揄された当時の庁舎は昭和22年5月の再建ともいわれますが、当時の新聞で調べてみると1月20日に竣工し、3月29日に落成式が行われています。



「おんぼろ庁舎」と呼ばれていた頃の市役所（『復興した 新しい青森』より）

さて、建設のスケジュールは、2月20日頃に庁舎内の各課が新浜町の中央公民館（現しあわせプラザの位置）などに移転し、3月早々に工事に着工、11月中に完成というもので、新聞紙面の表現を借りるとまさに「突貫作業」でした。

新しい庁舎は、地下にボイラーや電気室を備え、地上四階、中央部には「地上七階の塔屋」があり、そこに水槽と望楼・時計室を置きました。当時の新聞記事には、望楼の先端には「オルゴールサイレン」を取り付ける予定であると記されています。さらに、地上から塔屋までの高さは約25メートルもあり、市内で「地上七階の建物は戦前戦後を通じてこれがはじめて」と評され、しかも玄関には「イタリア産大理石」が使われ、当時は相当な威容を誇る庁舎ではなかったかと思えます。

そして、12月1日、新しい庁舎はついに竣工し、5日に落成式という運びになりました。その後、10日までに各課の移転を経て本格的な供用が開始されました。



青森市役所本庁舎(平成 28 年撮影)

当時「白亜の大殿堂」と称された市役所庁舎は 60 年余の役目を終え、これからできる新しい庁舎、そして 1 月 4 日に全面供用となった駅前庁舎などに機能を譲り、間もなくひとつの歴史の幕を閉じるのです。なお、『新青森市史』通史編第 4 巻 733 ページに、建設中の現庁舎の写真を載せておりますので、よろしかったらご覧ください。